

I 患 者 情 報

1 総括及び全数把握対象疾患

- 一類～五類感染症
- 新型インフルエンザ等感染症
- 獣医師が届けを行う感染症

2 定点把握対象疾患

- (1) 内科・小児科・基幹定点把握対象疾患
- (2) 眼科定点把握対象疾患
- (3) 性感染症把握対象疾患

3 鹿児島県の風しん予防対策

- 鹿児島県の妊婦における抗体検査の調査事業

1 総括及び 全数把握対象疾患

- (1) 一類感染症
- (2) 二類感染症
- (3) 三類感染症
- (4) 四類感染症
- (5) 五類感染症
- (6) 新型インフルエンザ等感染症
- (7) 獣医師が届けを行う感染症

総括及び全数把握対象疾患に関する動向

鹿児島県感染症発生動向調査委員会委員長

鹿児島県医師会副会長

大西 浩之

【全数把握対象疾患の概要】

○一類感染症

発生報告はなかった。

○二類感染症

届出は結核のみで、217例の報告があった。前年の172例に比べ、45例多い届出であった。平成30年以降、5年ぶりの増加となり、新型コロナウイルス感染症の規制緩和による受診増加や外国人の入国制限の緩和等が原因と考えられる。結核の病型は肺結核が102例、無症状病原体保有者65例、結核性胸膜炎18例の順に多く、年齢別では、80歳以上77例、70歳代48例、60歳代25例と、60歳以上が全体の約69%を占めている。

○三類感染症

届出は腸管出血性大腸菌感染症のみで、126例の報告があった。前年の35例より91例多く、11月に発生した鹿屋保健所管内の保育施設におけるO111の集団感染が大きく影響している。月別では11月60例、10月21例、6月14例の順に多かった。血清型別ではO111が76例、O157が28例、O26が7例の順、年齢別では3歳代19例、2歳代17例、1歳以下16例、5歳代13例、4歳・30歳代それぞれ10例の順に多く、保健所別では、鹿屋83例、鹿児島市22例、出水10例からの報告が多かった。

○四類感染症

つつが虫病45例、レジオネラ症13例、日本紅斑熱11例、重症熱性血小板減少症候群9例、レプトスピラ症6例、E型肝炎4例、エムポックス2例、A型肝炎、デング熱がそれぞれ1例であった。

つつが虫病は前年の76例より31例少ない45例であったが、全国第2位の届出数となった。主に農作業や森林作業での感染が多く、山菜採りや散歩などでも感染するリスクがあるため、山林や畑に立ち入る場合は長袖、長ズボンを着用し、素肌の露出を避ける等の対策が必要である。

エムポックスは令和4年5月以降、ヨーロッパやアメリカ大陸等で流行しており、同年7月には、国内初の感染者が確認されている。令和5年には、本県で初の感染者が報告され、ウイルスを保有している動物（リスなどのげっ歯類等）や既に感染した人との接触が主な感染原因となっている。新型コロナウイルス感染症と異なり、人から人への感染リスクは低いが、感染者との長時間かつ近距離での接触による飛沫感染だけでなく、性的接触による感染リスクもあるため注意を呼び掛けたい。

○五類感染症

梅毒167例、侵襲性肺炎球菌感染症20例、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症19例、急性脳炎11例、後天性免疫不全症候群・百日咳・侵襲性インフルエンザ菌感染症がそれぞれ7例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、クロイツフェルト・ヤコブ病5例、

アメーバ赤痢 4 例、水痘（入院例に限る）が 3 例、播種性クリプトコックス症・クリプトスポリジウム症がそれぞれ 2 例、ウイルス性肝炎（E 型・A 型を除く）・破傷風・ジアルジア症がそれぞれ 1 例の計 263 例の報告があった。

梅毒は、前年（141 例）から急増傾向にあり、令和 2 年以降では 3 年連続の増加となった。年齢別では 20 歳代 68 例、30 歳代 31 例、50 歳代 28 例の順に多く、届出受理保健所別では鹿児島市 100 例、姶良 26 例、出水 19 例の順であった。

○新型インフルエンザ等感染症の発生状況

令和 5 年の県内における新型コロナウイルス感染症の届出数は、77,911 例であり、年齢別では、40 歳代 11,289 例、30 歳代 10,774 例、20 歳代 10,029 例の順に多い届出数となった。5 月 8 日には、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の「新型インフルエンザ等感染症」から「5 類感染症」に位置づけられ、全ての医師が届出を行う全数把握から、定点把握に切り替えられた。全数把握の対象期間であった令和 2 年 2 月 1 日から令和 5 年 5 月 7 日までの届出累計数は 444,946 例であり、令和 4 年 9 月 20 日以降から導入された「みなし陽性制度」では、みなし陽性累計数が 886 例、コロナ・フォローアップセンターにおける確定累計数が 10,640 例であった。

○獣医師が届けを行う感染症の発生状況

結核のサル 4 例、鳥インフルエンザ（H5N1 亜型）鳥類の野鳥からの 1 例と飼養鶏（家きん類）の 2 例の届出があった。

11 月 14 日には、出水市東干拓地で回収された渡り鳥のオナガガモ、ヒドリガモの死骸から高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1 亜型）が検出されている。2 月 3 日には鹿屋市、12 月 3 日には出水市高尾野町の養鶏場で同鳥インフルエンザウイルスが検出され、鶏の殺処分、卵の移動制限等が実施された。

【総括】

令和 5 年は、これまでの新型コロナウイルス感染症流行に伴う手洗いやマスク着用など感染対策の徹底・衛生意識の向上により、上記疾患全体として大幅な増加は見られなかった。

一方、梅毒は依然として増加傾向にあり、本県における令和 5 年の累計感染者数は昨年の約 1.2 倍の 167 件で、1999 年の感染症法に基づく感染症発生動向調査事業の開始以降、最も多い届出数となった。特に、20 代若年層の感染が目立っており、母子感染すると流産の危険が高まる恐れもある為、早期健診・早期治療を実施していただくなど、引き続き注意を呼び掛けたい。

国内で新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されてから 4 年が経過し、感染症法上は 5 類に移行した現在でも感染再拡大や新たな感染症流行時の対応など様々な課題が懸念されており、本感染症動向調査事業の重要性はより一層高まるものと考えられる。本会としても、鹿児島県環境保健センターをはじめ、行政並び会員医療機関と十分に連携を図りながら、安心して医療を受けられる医療提供体制の構築に、全力で取り組んでいきたい。

最後に、本感染症発生動向事業定点医療機関並びに全数把握対象疾患のご報告をいただいた医療機関に感謝申し上げるとともに、今後も感染症の早期発見と早期治療に努めることで、地域への感染症防止に尽力していきたい。

(1) 一類感染症の発生状況

発生報告なし

(2) 二類感染症の発生状況

令和5年の県内における二類感染症の届出は、結核が217例(男性106例, 女性111例)で, 令和4年の172例に比べ, 45例多い届出であった(表1-1-1, 表1-1-2, 図1-1)。病型では, 肺結核(102例), 無症状病原体保有者(65例), 結核性胸膜炎(18例)の順に多く, 年齢別では, 80歳以上(77例), 70歳代(48例), 60歳代(25例)と, 60歳以上が全体の約69%を占めている。

表1-1-1 月別発生状況

月	報告数	無症状病原体保有者 (再掲)
1	9	6
2	18	4
3	24	8
4	16	3
5	13	2
6	27	5
7	19	7
8	19	9
9	※24	8
10	9	1
11	22	5
12	17	7
合計	217	65

※疑似症1

表1-1-2 保健所別届出状況

保健所名	報告数	無症状病原体保有者 (再掲)
鹿児島市	109	39
指宿	5	2
加世田	11	3
伊集院	5	3
川薩	13	1
出水	11	1
大口	2	1
始良	※18	1
志布志	1	0
鹿屋	28	10
西之表	0	0
屋久島	0	0
名瀬	12	3
徳之島	2	1
合計	217	65

※疑似症1

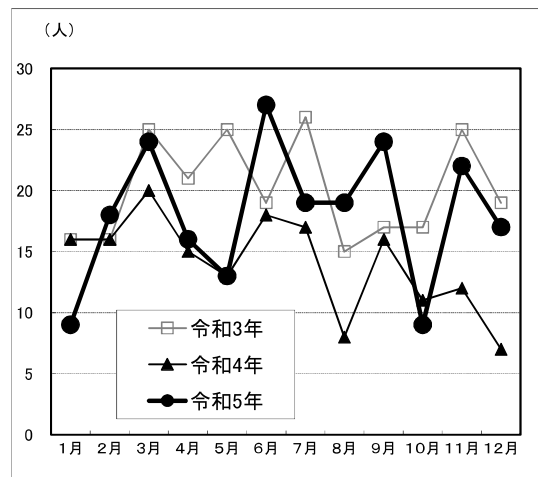


図1-1 令和3～令和5年の結核発生状況

(3) 三類感染症の発生状況

令和5年の県内における三類感染症の発生状況は, 腸管出血性大腸菌感染症126例(図1-2-1, 図1-2-2, 図1-2-3, 図1-2-4, 表1-2-1, 表1-2-2, 表1-2-3)であった。

○ 腸管出血性大腸菌感染症

県内における腸管出血性大腸菌感染症の届出状況は, 前年(35例)より91例多い126例(患者76例, 無症状病原体保有者50例)で, 性別は男性64例, 女性62例であった。11月には鹿屋保健所管内の保育施設で0111による集団感染事例の発生があった。月別では11月(60例), 10月(21例), 6月(14例)の順に(図1-2-1, 図1-2-3), 血清型別では0111(76例), 0157(28例), 026(7例)の順に多かった。(図1-2-2, 図1-2-4, 表1-2-1)。年齢別では, 3歳(19例), 2歳(17例), 1歳以下(16例), 5歳(13例), 4歳, 30歳代(それぞれ10例)の順に多く(表1-2-2), 保健所別では, 鹿屋(83例), 鹿児島市(22例), 出水(10例)からの報告が多かった(表1-2-3)。

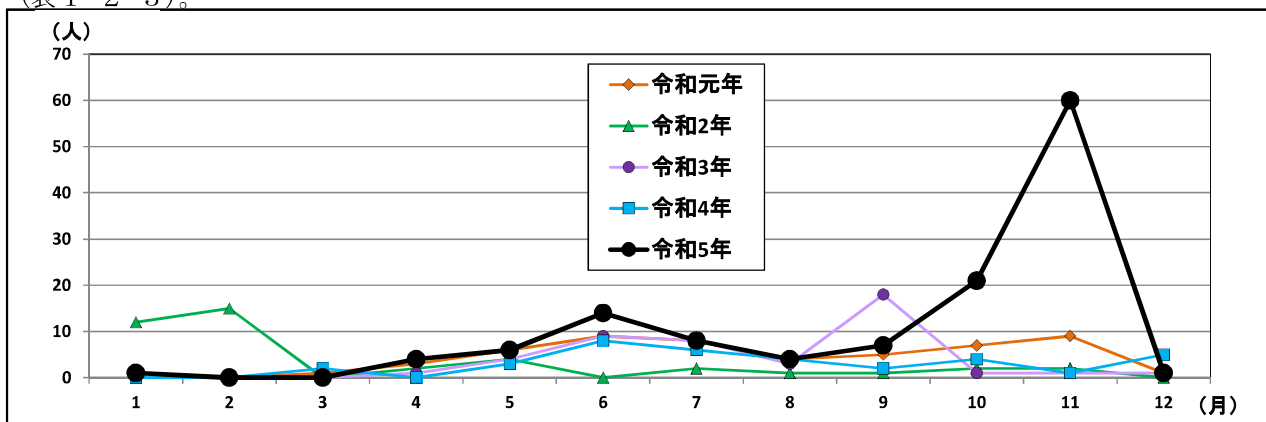


図1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症の年別月別患者発生数

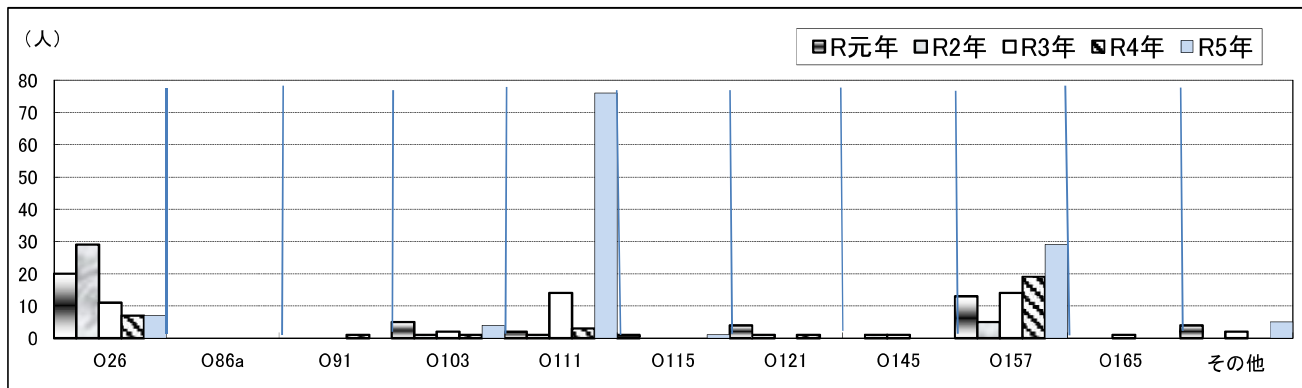


図1-2-2 腸管出血性大腸菌感染症の血清型別

表1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症の年別血清型

年	型別	O26	O86a	O91	O103	O111	O115	O121	O145	O157	O165	その他	不明	合計
平成26年		25	0	0	3	9	0	2	1	18	3	4	3	68
平成27年		12	0	0	1	6	1	2	0	20	0	2	5	49
平成28年		14	0	0	3	7	1	0	0	19	0	2	5	51
平成29年		21	1	0	2	14	0	1	1	11	0	0	6	57
平成30年		23	0	0	1	8	0	0	1	19	0	0	4	56
令和元年		20	0	0	5	2	1	4	0	13	0	4	5	54
令和2年		29	0	0	1	1	0	1	1	5	0	0	3	41
令和3年		11	0	0	2	14	0	0	1	14	1	2	1	46
令和4年		7	0	1	1	3	0	1	0	19	0	0	3	35
令和5年		7	0	0	4	76	1	0	0	29	0	5	4	126
合計		169	1	1	23	140	4	11	5	167	4	19	39	583

表1-2-2 令和5年における腸管出血性大腸菌感染症の性別及び年齢別報告数

年齢別	性別	～1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
男		8	7	13	6	9	3	1	1	0	2	1	1	3	4	2	1	2	64
女		8	10	6	4	4	4	0	0	1	1	2	2	7	5	2	4	2	62
合計		16	17	19	10	13	7	1	1	1	3	3	3	10	9	4	5	4	126

表1-2-3 令和5年における腸管出血性大腸菌感染症の保健所別報告数

保健所	鹿児島市	指宿	加世田	伊集院	川薩	出水	大口	始良	志布志	鹿屋	西之表	屋久島	名瀬	徳之島	合計
報告数	22	0	1	1	3	10	0	2	0	83	0	0	1	3	126

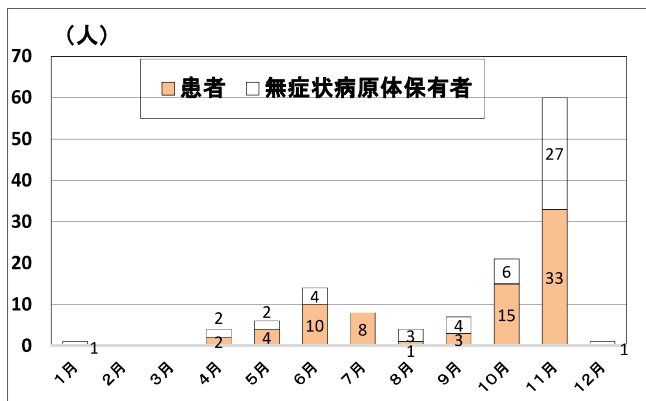


図1-2-3 令和5年における腸管出血性大腸菌感染症の月別・病型別報告数

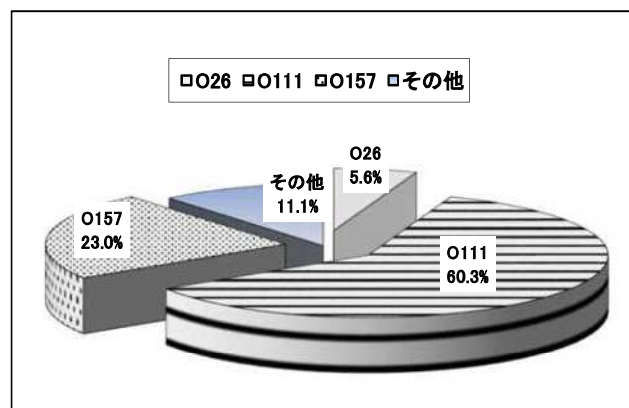


図1-2-4 令和5年における腸管出血性大腸菌感染症の血清型別割合

(4) 四類感染症の発生状況

令和5年の県内における四類感染症の届出は92例で、つつが虫病(45例)、レジオネラ症(13例)、日本紅斑熱(11例)、重症熱性血小板減少症候群(9例)、レプトスピラ症(6例)、E型肝炎(4例)、エムボックス(2例)、A型肝炎、デング熱(それぞれ1例)であった(表1-3)。つつが虫病及び日本紅斑熱の年次別報告数推移を図1-3に示し

表1-3 四類感染症の発生状況(届出数順)

疾患名		年	平成 26	27	28	29	30	令和 元	2	3	4	5
四 類 感 染 症	つつが虫病		41	67	77	66	89	66	92	82	76	45
	レジオネラ症		11	4	19	7	8	17	16	13	27	13
	日本紅斑熱		14	11	22	18	22	18	18	28	22	11
	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)		4	6	4	11	9	8	3	6	9	9
	レプトスピラ症		0	1	5	1	0	2	0	0	6	6
	E型肝炎		1	0	1	0	3	0	2	3	2	4
	エムボックス		0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	A型肝炎		34	1	1	1	1	2	3	3	4	1
	デング熱		0	1	2	0	0	3	0	0	0	1
	Q熱		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	チクングニア熱		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	合計		105	91	131	104	132	118	134	135	146	92

○ つつが虫病

県内におけるつつが虫病的発生状況は、前年(76例)より31例少ない45例であった。全国の報告数(445例)のうち都道府県別では、全国第2位であった(1位千葉県(72例)、3位宮崎県(33例)、4位愛知県(27例))。性別では、男性(31例)、女性(14例)で、月別では、12月(20例)、1月(16例)、3月(3例)の順に多かった。年齢別では、70歳代(14例)、80歳以上(13例)、60歳代(12例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(12例)、姶良、鹿屋(それぞれ11例)、志布志(4例)の順であった。

○ 日本紅斑熱

県内における日本紅斑熱の発生状況は、前年(22例)より11例少ない11例であった。性別では、男性が4例、女性が7例で、月別では、5月、11月(それぞれ3例)、1月、6月、7月、8月、12月(それぞれ1例)の順に多かった。年齢別では、80歳代以上(5例)、70歳代(3例)、30歳代、50歳代、60歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿屋(7例)、鹿児島市、加世田、志布志、名瀬(それぞれ1例)の順であった。

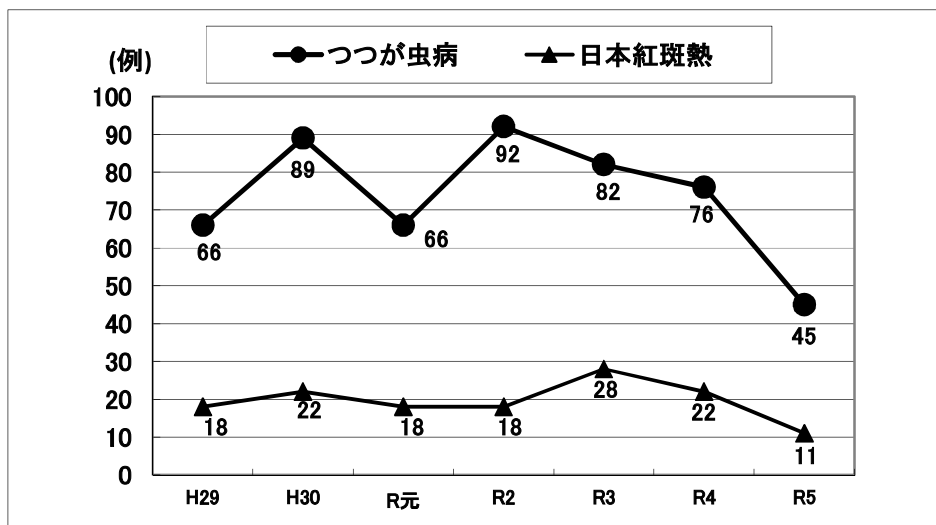


図1-3 つつが虫病及び日本紅斑熱の年別発生状況

○ レジオネラ症

県内における届出状況は、前年(27例)より14例少ない13例(男性12例, 女性1例)であった。病型別では、肺炎型(12例), 無症状病原体保有者(1例)であった。月別では、6月(3例), 9月・10月・11月(それぞれ2例), 3月・4月・7月・8月(それぞれ1例)であった。年齢別では、70歳代(6例), 80歳以上(3例), 50歳代・60歳代(それぞれ2例)の順に多かった。届出受理保健所別では、鹿児島市(5例), 姶良(3例), 出水(2例), 大町・西之表・名瀬(それぞれ1例)の順であった。

○ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

県内における届出状況は、前年(9例)と同数の9例(男性7例, 女性2例)であった。月別では、5月・7月・10月(それぞれ2例), 4月・9月・11月(それぞれ1例)であった。年齢別では、80歳代以上(5例), 70歳代(3例), 50歳代(1例)の順に多かった。

○ レプトスピラ症

県内における届出状況は、前年(6例)と同数の6例(すべて男性)であった。月別では、8月・10月(それぞれ2例), 2月・9月(それぞれ1例)であった。年齢別では、30歳代・60歳代(それぞれ2例), 20歳代・80歳代(それぞれ1例)で、届出受理保健所別では、名瀬(3例), 鹿児島市(2例), 川薩(1例)の順であった。

○ E型肝炎

県内における届出状況は、前年(2例)より2例多い4例(すべて男性)であった。月別では、10月(2例), 8月・12月(それぞれ1例)であった。年齢別では、70歳代(2例), 50歳代・60歳代(それぞれ1例)であった。届出受理保健所別では、出水(2例), 鹿児島市, 加世田(それぞれ1例)であった。

○ エムボックス

県内における届出状況は、前年は届出無しであったが、本年は2例(すべて男性)であった。月別では、7月(2例)であった。年齢別では、30歳代, 40歳代(それぞれ1例)であった。届出受理保健所別では、すべてが鹿児島市であった。

○ A型肝炎

県内における届出状況は、前年(4例)より3例少ない1例(女性, 2月, 20歳代, 鹿児島市保健所)であった。

○ デング熱

県内における届出状況は、前年は届出無しであったが、本年は1例(女性, 8月, 20歳代, 鹿児島市保健所)であった。

(5) 五類感染症の発生状況

令和5年の県内における五類感染症の報告は260例で、梅毒(164例)、侵襲性肺炎球菌感染症(20例)、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(19例)、急性脳炎(11例)、後天性免疫不全症候群・百日咳・侵襲性インフルエンザ菌感染症(それぞれ7例)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(6例)、クロイツフェルト・ヤコブ病(5例)、アメーバ赤痢(4例)、水痘(入院例に限る)(3例)、播種性クリプトコックス症・クリプトスポリジウム症(それぞれ2例)、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)・破傷風・ジアルジア症(それぞれ1例)の届出があった(表1-4)。

表1-4 五類感染症の発生状況（届出数順）

年		平成	27	28	29	30	令和	2	3	4	5
疾患名		26					元				
五 類 感 染 症	梅毒	7	9	18	21	51	55	38	56	141	164
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	13	15	10	25	27	24	21	16	19
	侵襲性肺炎球菌感染症	24	25	17	24	33	31	26	16	15	20
	急性脳炎	7	11	17	21	26	29	14	18	19	11
	後天性免疫不全症候群	12	9	11	18	8	13	12	6	13	7
	百日咳	△	△	△	△	153	728	83	3	5	7
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	4	0	2	8	8	2	3	4	7
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	6	3	3	3	7	11	9	4	6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4	10	4	6	3	3	4	6	5	5
	アメーバ赤痢	6	7	7	7	7	6	5	2	4	4
	水痘(入院例に限る)	4	4	3	5	3	5	3	2	3	3
	播種性クリプトコックス症	0	1	1	5	1	2	3	2	4	2
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	1	2	0	0	0	0	2
	ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	8	4	6	4	5	3	2	2	4	1
	破傷風	6	5	4	5	8	5	4	3	4	1
	ジアルジア症	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
	急性弛緩性麻痺	△	△	△	△	3	3	3	0	0	0
	風しん	0	0	1	0	3	2	1	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0
	麻しん	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
合 計		86	110	110	134	345	929	235	149	241	260

○ 梅毒

県内における届出状況は、前年(141例)より23例多い164例(男性106例、女性58例)であり、月別では6月(22例)、10月(20例)、3月・5月(それぞれ15例)の順に多かった。

病型別では、早期顕症Ⅰ期(77例)、早期顕症Ⅱ期(49例)、無症状病原体保有者(38例)の順に、年齢別では20歳代(68例)、30歳代(31例)、50歳代(28例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(100例)、姶良(26例)、出水(19例)の順であった。

○ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

県内における届出状況は、前年(16例)より3例多い19例(男性9例、女性10例)であり、月別では3月・6月(それぞれ3例)、1月・2月・4月・11月・12月(それぞれ2例)、5月・7月・8月(それぞれ1例)の順に多かった。年齢別では、80歳以上(9例)、70歳代(5例)、60歳(4例)の順に多く、届出受理保健所別では、すべてが鹿児島市からであった。

○ 侵襲性肺炎球菌感染症

県内における届出状況は、前年(15例)より5例多い20例(男性13例、女性7例)であり、月別では1月・4月(それぞれ4例)、2月(3例)、3月・5月・12月(それぞれ2例)の順に多かった。年齢別では70歳代(7例)、10歳未満・80歳以上(それぞれ4例)、60歳代(3例)の順に多く、届出受理保健所別では鹿児島市(14例)、名瀬(2例)、川薩・志布志・鹿屋・徳之島(それぞれ1例)の順に多かった。

○ 急性脳炎

県内における届出状況は、前年(19例)より8例少ない11例(男性7例、女性4例)であり、月別では7月、8月、11月(それぞれ2例)、1月、2月、5月、6月、12月(それぞれ1例)であった。年齢別では、10歳未満(4例)、70歳代(3例)、20歳代(2例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(10例)、川薩(1例)の順であった。

○ 後天性免疫不全症候群

県内における届出状況は、前年(13例)より6例少ない7例(すべてが男性)であり、月別では5月(2例)、1月・6月・8月・9月・12月(それぞれ1例)であった。

病型別では無症状病原体保有者4例、患者3例であった。年齢別では、40歳代(3例)、20歳代、30歳代(それぞれ2例)の順に多く、届出受理保健所別では、すべてが鹿児島市からであった。

○ 百日咳

県内における届出状況は、前年(5例)より2例多い7例(男性2例、女性5例)の報告があり、月別では1月・2月・4月・5月・6月・7月・10月(それぞれ1例)の順に多かった。

年齢別では、10歳未満、10歳代、40歳代(それぞれ2例)、20歳代(1例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市、徳之島(それぞれ2例)、伊集院、川薩、出水(それぞれ1例)の順であった。

○ 侵襲性インフルエンザ感染症

県内における届出状況は、前年(4例)より3例多い7例(男性4例、女性3例)で、月別では5月・6月・11月(それぞれ2例)、12月(1例)であった。年齢別では80歳以上(5例)、10歳未満、60歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市、鹿屋(それぞれ3例)、大口(1例)であった。

○ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

県内における届出状況は、前年(4例)より2例多い6例(男性3例、女性3例)で、月別では12月(2例)、2月・6月・10月・11月(それぞれ1例)であった。年齢別では60歳代(3例)、30歳代・70歳代・80歳以上(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(4例)、西之表(1例)であった。

○ クロイツフェルト・ヤコブ病

県内における届出状況は、前年(5例)と同数の5例(男性2例、女性3例)で、月別では5月(2例)、4月・7月・11月(それぞれ1例)であった。年齢別では60歳(3例)、50歳代・70歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(4例)、始良(1例)であった。

○ アメーバ赤痢

県内における届出状況は、前年(4例)と同数の4例(男性3例、女性1例)で、月別では1月・3月・6月・10月(それぞれ1例)であった。年齢別では50歳代(2例)、40歳代・60歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では鹿児島市(2例)、川薩・始良(それぞれ1例)であった。

○ 水痘(入院例に限る)

県内における届出状況は、前年(3例)と同数の3例(男性2例、女性1例)で、月別では3月(2例)、11月(1例)であった。年齢別では20歳代・60歳代・70歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、すべてが鹿児島市であった。

○ 播種性クリプトコックス症

県内における届出状況は、前年(4例)と2例少ない2例(男性1例、女性1例)で、月別では3月(1例)、12月(1例)であった。年齢別では70歳代・80歳代(それぞれ1例)で、届出受理保健所別では、鹿児島市(1例)、川薩(1例)であった。

○ クリプトスポリジウム症

県内における届出状況は、前年は届出無しであったが、本年は2例(男性1例、女性1例)であった。月別では6月(1例)、12月(1例)で、年齢別では20歳代・70歳代(それぞれ1例)であった。届出受理保健所別では、すべてが鹿児島市であった。

○ ウイルス性肝炎(E型, A型を除く)

県内における届出状況は、前年(4例)より3例少ない1例(女性, 2月, 20歳代, 鹿児島市保健所)であった。

○ ジアルジア症

県内における届出状況は、前年は届出無しであったが、本年は1例(男性1例, 3月, 50歳代, 始良保健所)であった。

○ 破傷風

県内における届出状況は、前年(4例)より3例少ない1例(男性, 11月, 60歳代, 徳之島保健所)であった。

(6) 新型コロナウイルス等感染症の発生状況

○ 新型コロナウイルス感染症

令和5年の県内における新型コロナウイルス感染症の届出数は、77,911例であった。年代別割合、月別割合については下記図表のとおり（表1-5-1、表1-5-2、図1-5-1、図1-5-2）。新型コロナウイルス感染症の届出累積数（2020.2.1～2023.5.7）は444,946例であった。指定感染症（2020.2.1～2021.2.12）として1,705例、新型コロナウイルス感染症（2021.2.13～2023.5.7）として44,3241例の届出があった。

年別では令和2年1,016例（すべて指定感染症）、令和3年8,106例（指定感染症689例、新型コロナウイルス感染症7,417例）、令和4年357,913例（すべて新型コロナウイルス感染症）、令和5年77,911例（すべて新型コロナウイルス感染症）であった。

また、本県では令和4年9月20日以降からみなし陽性制度を導入したが、みなし陽性累積数886例、コロナ・フォローアップセンターにおける確定累積数10,640例であった。

表1-5-1 年代別の届出数及び割合

年齢区分	届出数	割合
10歳未満	9,528	12.2%
10代	9,457	12.1%
20代	10,029	12.9%
30代	10,774	13.8%
40代	11,289	14.5%
50代	8,993	11.5%
60代	7,174	9.2%
70代	4,900	6.3%
80代	3,707	4.8%
90歳以上	2,060	2.6%
合計	77,911	

表1-5-2 月別の届出数及び割合

	届出数（例）	割合
1月	60,518	77.7%
2月	10,571	13.6%
3月	3,944	5.1%
4月	2,199	2.8%
5月	679	0.9%
合計	77,911	

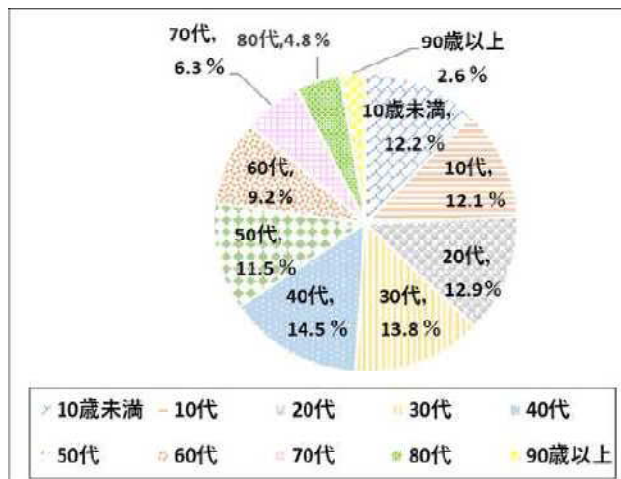


図1-5-1 令和5年ににおける新型コロナウイルス感染症の年代別割合

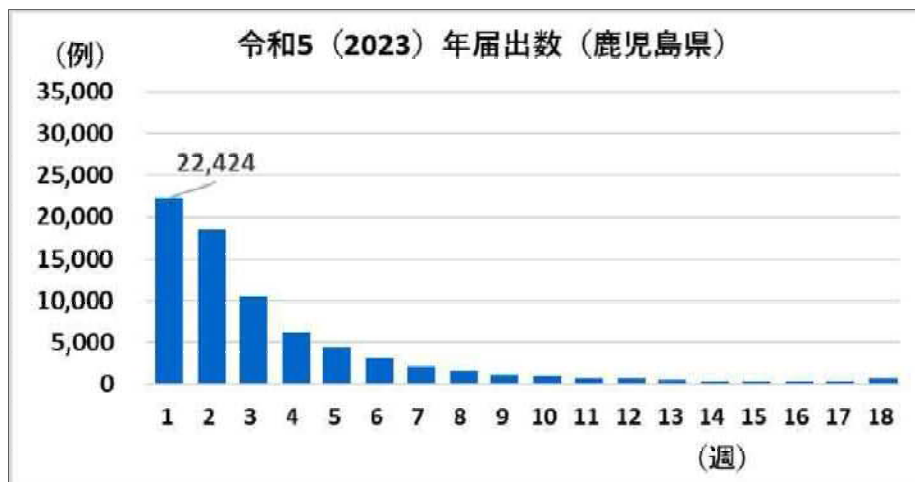


図1-5-2 届出数の週別推移

(7) 獣医師が届けを行う感染症の発生状況

結核のサル4例（表1-5-3）、鳥インフルエンザ（H5N1亜型）鳥類の野鳥からの1例（表1-5-4）と飼養鶏（家きん類）の2例（表1-5-5）の届出があった。

鳥インフルエンザ（H5N1亜型）については、出水市東干拓地で第45週（11/11、11/12）に回収した渡り鳥のオナガガモ、ヒドリガモの死骸から高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1亜型）が第46週（11/14）に検出された。また、第6週（2/3）に鹿屋市、第48週（12/3）に出水市高尾野町の養鶏場で鳥インフルエンザウイルス（H5N1亜型）が検出され、鶏の殺処分、卵の移動制限等が行われた。

表1-5-3 本県における結核サルの届出状況（令和5年）

	発生場所	通報日	動物名	診断週
1例目	指宿市	4. 6	カニクイザル	14週
2例目	指宿市	4.30	カニクイザル	17週
3例目	指宿市	6. 2	カニクイザル	22週
4例目	指宿市	6.30	カニクイザル	26週

表1-5-4 本県における高病原性鳥インフルエンザ野鳥届出状況（令和5年）

	発生場所	通報日	動物名	診断週
1例目	出水市	11.14	オナガガモ、ヒドリガモ	46週

表1-5-5 本県における高病原性鳥インフルエンザの届出状況と防疫措置状況（令和5年）

	発生場所	通報日	飼養羽数	ウイルス型	殺処分完了日	診断週
1例目	鹿屋市	2. 3	肉用鶏 約2.4万羽	H5N1	2. 4	5週
2例目	出水市	12. 3	採卵鶏 約2.3万羽	H5N1	12. 4	48週